

「お祀りする」ということ



境内の落ち葉掃きをしていると檀家さんで今は亡きMさんを思い出します。

私のお寺の境内には昔からお稲荷様をお祀りしています。明治 22 年に開通した国鉄東海道本線の木曾川鉄橋を工事していた時、毎日鉄道工夫さんが橋から転落して川に落ちたそうです。助け出してみると怪我もなく全員無事だったのですが、それが何日も続くものだから気味が悪くなった頃、お稲荷様から私の亡き曾祖父(当時住職)にお告げがありました。お寺の前のその工事現場がたいへん騒々しく、お稲荷様が嫌われたのです。祖母から聞いた話です。

もう 30 年程前のことですが、檀家のMさんがご先祖のお墓参りにいらっしゃいまして、その帰り際に境内の落ち葉掃きをしてくださいました。するとお稲荷様のお社の近くに人の腕程の穴が開いていたので、Mさんは集めた落ち葉をその穴に詰めていったそうです。落ち葉は穴の奥へとどんどん入っていきました。帰宅されてしばらくするとMさんの手から腕が倍の太さになるほど腫れ上がったそうです。落ち葉を詰めた方の腕です。事情を聞いた父は直ぐにお稲荷様の所へ行き、塩でお清めして般若心経を誦読し失礼をお詫びし、Mさんの腕も嘘のように治りました。お稲荷さんのお社の付近には時々このような穴が開きます。祖母は幼少の私

に、「この穴はお稲荷様の眷属(お使い)であるお狐さんが出入りする穴だから、自然に埋まるまでは決して触っていけない」と教えました。

私の家族全員ですが、神佛のお世話をさせていただくことは大変なことです。特にお稲荷様は現世利益でもって私たちを守って下さるお力が凄い反面、お告げに気が付くために色々な試練をいただきます。子供の頃、祖母からその「穴」の話聞いて、「罰があたる」と恐れていた気がします。それが嫌だからと言って途中でお祀りすることをやめることは出来ないので大変なのです。これは、皆さんのご家庭にあるお仏壇や神棚、御先祖を祀りするお墓にも通じるところがあるように思います。



妻が「今週は風邪もひいてないのに体が重く難儀するわ」と言っていた矢先、夜、娘が入浴中に発作を起こして沈んでいました。彼女は障害者で介護が必要です。日頃から入浴中は用心していたのですが、あつと言う間の出来事でした。引き揚げたら息を休めて安堵しました。それから数日後、大阪の佛具屋のKさんが前触れもなく、夏に依頼したお釈迦様の御像を持って来寺されました。新しく神佛をお祀りする前には必ず私たち家族に心臓が飛び出るくらいびっくりする事件が起こります。新しくおいでになる神佛様から試されているような気がします。「祀る」とは、それだけ覚悟と勇気が必要なのです。妻が「そういうことだったのですね」と言い、お釈迦様の前で手を合わせていました。

俊徳丸